

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170500702		
法人名	社会福祉法人 サンライフ		
事業所名	グループホーム ジョイフル各務原		
所在地	岐阜県各務原市鵜沼小伊木町3丁目170番地1		
自己評価作成日	平成26年7月20日	評価結果市町村受理日	平成26年10月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2170500702-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会		
所在地	〒503-0864 岐阜県大垣市南類町5丁目22-1 モナーク安井307		
訪問調査日	平成26年8月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ベランダから臨む犬山城や木曾川、リビング目の伊木山など四季折々の景観があり、自然に恵まれた開放感ある環境の中、併設施設である特養やデイサービスなどと連携し、地域社会との継続的な関係性を保っています。軽度から中度の認知症をお持ちの利用者に対して、グループホーム本来の機能を十分に発揮することができるような環境づくりに励み、それぞれの方の能力や個性を活かして自立した生活を送って頂けるように支援しています。今年度は、①個性を見つけよう(利用者も職員も、一人ひとりの個性を認め合う気持ちを大切にすること。)②共感の輪(皆で感じることに意義があること。)③感謝(共に支え合っていることを忘れずにすること。)をモットーに、互いの関係性を築きながら、サービスの充実を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

このホームでは開設当初より“自立した暮らしの支援”を指針として掲げており、他事業所とも連携を図り利用者の穏やかな生活を支えている。今年度は地域との関係作りの強化を目標にしている。ホームの行事や話し合いに地域の方に参加してもらい、また住民による公園清掃に利用者職員で出かけ、自然な形で交流を図っている。さらに『食』を通じた取り組みにも力を入れている。買い物、調理、配膳、後片づけ等に利用者が個々の力を発揮し、張り合いや自信となり生きる力につなげている。法人の支えも大きな強みである。研修制度や資格取得に向けたバックアップ体制、敷地内の託児所設置など、職員のスキルを高め継続して働ける環境が整備されている。職員の生き生きとした姿や温かいまな差しが、利用者の笑顔を引き出しているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念と共に事業所独自の憲章を掲げながら、地域密着型サービスとしての共通認識を持った上で、それに応じた外出などの実践に取り組んでいる。	ホームが一年間取り組んでいく目標を“憲章”として掲げており、毎年職員から募り検討して作り上げている。ミーティング等で憲章について話す機会もあり、一人ひとりがそれぞれのケアに落とし込んで取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	特養など併設の事業所とも連携しながら、施設行事(納涼祭、秋祭り)や地域サロンなどの開催、また地域で行われている花見や運動会にも出かけており、その関係性を継続している。	昨年の評価結果をふまえ、地域とのつながり強化を目標にして取り組んでいる。住民による公園清掃に利用者と職員が参加しており、自然な形でご近所と交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行きつけのスーパーの店員(一部)とは顔馴染みの関係であり、交流を通じて施設利用者に対する理解や支援につながっている。今年度は、施設外の事業所との交流会を実施する予定。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事や事故などの報告を行い、施設での取り組みについて参加者に理解を深めて頂くと共に、会議で得た助言を元にサービス向上への意識を高めている。	ホームの行事や消防訓練にあわせ会議を開催することもあり、利用者の様子やホームの状況を理解してもらい参加者の助言を運営に活かしている。会議当日は利用者がお茶出しを担当し、会議にも出席している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	併設の事業所である地域包括支援センターとも情報交換を行い、随時相談できる関係性を築いている。	同じ建物内に併設された地域包括支援センターには様々な制度について確認相談することもあり、日頃より協力関係を築くようしている。介護保険更新の手続きには、利用者を同伴して市窓口に出向いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的には、施設館内を利用者が自由に行動することができるようになっている。職員間で声をかけ合い、グループホーム外へ出られた方の所在確認を行いながら安全性を配慮している。身体拘束に関する勉強会も、行われている。	法人として身体拘束は行わない方針を掲げており、ホームでも一切行っていない。また拘束についての学びの場は法人の研修年間計画に組まれており、ホームとしても勉強会で取り上げ具体的な例をもとに職員の認識を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間でケアに対する気付きを共有しながら、虐待が行われないように努めている。高齢者の虐待防止に関する勉強会も、行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する勉強会を設けながら、併設事業所の他職種との連携を通じて、必要性に応じた対処が図れるように体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には相談員やハウスマネージャーが窓口となり、利用者が理解・納得の上で施設サービスを利用して頂いている。必要な情報は共有し、全職員で利用者との関係づくりに取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	満足度調査を年に2回実施しており、結果報告も行っている。また家族会や運営推進会議、事業所の会議でも報告や検討を行いながら、開かれた運営を目指している。	利用者の病院受診は家族が行い、それ以外にも面会が多い為、職員が顔を合わせ話しをする機会も多い。家族会が年2回、食事会や意見交換会として開催され、職員との信頼関係を深める場になっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所の会議や個別面談を通し、職員の意見を聞く機会を設けている。話し易い雰囲気づくりを意識し、個々の意見を運営に反映することができるよう、必要に応じて話し合いを重ねている。	年度初めの個別面談にて、職員一人ひとりの前年度目標の振り返りと新たな目標について話し合っている。また日頃から、就労継続には何が必要か等、職場環境に関する意見を聞いて運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昨年度、施設内に託児所がオープンした。法人として有給休暇の取得を推進しており、心も身体も元気で働けるような職場環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画の上勉強会が行われていると共に、力量や希望に応じて施設内外の研修機会を設けながら、職員のモチベーションを高めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員の資質向上のため、定期的な勉強会、施設内外の研修の他、研修の受入れも行っており、個人だけではなくチームとしてのスキルアップにもつなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話を傾聴してニーズをすくい上げると共に、家族の情報なども職員間で共有し、安心して施設での生活を送って頂けるよう、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人同様に話を傾聴しながら、要望や不安なことを話し易い雰囲気づくりも意識している。本人を支援している家族の背景もすくい取ることができるよう、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者との意見を重ねる中でニーズを見極め、必要に応じた情報提供を行いながら、生活の質の向上につながるサービス提供を心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を一番とし、共同生活において個性を発揮して頂けるように、他者との関係性に留意しながらメリハリのある生活づくりを支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者である前に、「父(母)として」「夫(妻)として」の姿が本来の顔であることを念頭におき、本人と家族の結びつきを考慮しながら関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	習慣や在宅時代に利用していた店など、本人や家族の情報をもとにその把握に努め、生活に取り入れている。ニーズに応じて今までのことを継続して頂けるよう、支援に努めている。	ケアプラン見直し時にはアセスメントや日頃の気づきが記録された日誌などを読み返し、利用者一人ひとりについてこれまでの生活がにつながるようサービスに落とし込んでいる。家族とも連携し、協力して取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性を大切にし、利用者同士の関係性に配慮しながら互いが気持ち良く、互いに支え合って生活できるように、食事席や入浴の順番などを随時検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後、併設の特養に移られた方が大半である。施設行事などで(家族とも)交流機会があり、継続した関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族の意向(会話や行動)を記録などに落としこみ、その把握に努めると共に、希望に沿ったサービス提供ができるように検討している。	入浴時や夜間など職員が利用者と一対一になる機会を作り、リラックスした中でゆっくり話しを聞き思いの把握に努めている。また一人ひとりのつぶやきや何気ない行動を見逃さず、記録に残して職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、また入居時の書類や以前の担当職員からの情報をもとに、今までの生活スタイルを出来る限り継続して頂けるよう、その把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や口頭での情報交換を通して、利用者の変化に留意している。気付きを大切にして全員で考え、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の意向をもとに、担当職員を中心に情報収集(記録を遡りアセスメントの作成)を行っている。全員で共有しながら意見を出し合い、ケアプランの充実化を図っている。	半年毎にアセスメント、モニタリングを行い、プラン見直しに合わせ家族も同席してカンファレンスを開いている。個人ファイルについては、現在行っているサービスとこれまでの経過が見やすくまとめられている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアに活かすことができるように記録(情報)を共有し、その把握にも努めている。介護記録に関する勉強会も行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別外出や、他部署とも連携を図りながら個別のレクリエーション参加を実施している。利用者のニーズや状態に応じたサービスが提供できるよう、随時職員間で検討し、取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の趣味や生活暦を考えながら、市民清掃や花見などの町内行事に参加し、地域との継続的な関係を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者それぞれにかかりつけ医があり、家族が受診を担っている。家族への様態報告を日頃から意識的に行い、体調の変化に応じて早期連絡を心がけながら(併設事業所その他職種にも相談し)支援をしている。	現在は全員がかかりつけ医の継続受診希望で、家族が通院介助を行っている。受診前後の情報や結果は家族・職員全員で共有している。また要望があれば協力医の往診手配も支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の特養看護師や地域包括支援センター職員と連携し、介護職では判断し兼ねる事態が発生した際には相談しながら、適切な処置が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	相談員やハウスマネージャーが中心となり、医療機関との調整を図っている。長期入院となる場合も、地域事業所と連携を図りながら退院時の受け入れ体制を整え、利用者が安心して治療できるように関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	法人のグループホームでは終末期の対応を行っていないことを入居前に説明し、理解を得た上でサービスを利用して頂いている。体調の変化に応じて話し合いを行い、利用者にとって適した環境場で生活して頂けるように支援している。	入居時に、このホームが自立した暮らしを継続支援する所である旨を説明し、終末期対応を行わない方針に同意をいただいている。入居後には早い段階から家族や主治医・関係者と話し合い、責任ある安心した支援につなげている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応や事故発生時のマニュアルや勉強会があり、日頃からの意識付けを行っている。会議でも話し合いを行い、職員が共通認識をもって再発予防に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に(全職員が様々な場面を想定して)防災訓練を行っている。消防署にも協力してもらい、助言や指導を受ける中で災害時に対する意識を高めている。	消防署協力立ち合いもと、施設全体さらにホーム単独でも防災訓練が行われている。結果を職員間でフィードバックすることにより利用者の避難行動の特徴を把握し、安全避難に向け話し合っている。	備蓄はホーム内だけでなく法人として施設全体でも行っている。その内容について職員全員が把握し、災害時には万全の体制で臨まれる様期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人と関係性を築くように努め、トイレや身だしなみの声かけなどにおいては本人の気持ちを汲み、他の方の目や耳に触れぬよう、先を見越した関わりを職員同士で呼びかけながら行っている。	人格を尊重した言葉かけや羞恥心に配慮した介助を、職員全員が当たり前のこととして行っている。外部に出す情報にも注意を払い、家族への便り、ホーム内掲示、第三者に渡す場合等と、表し方を変えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	着替えの衣服や食べたいもの(献立)の意見など、自己決定できるような場面作りを心がけている。命令的な声かけではなく、相手の気持ちに寄り添うことができるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活スタイルを把握し、ケアプランにおとし込んでいる。本人の希望や体調に応じて行事や外出に参加して頂けるよう、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧や髭剃りなど、これまでの習慣を大切にしながら支援を行っている。本人の能力(認識力)に応じて家族に相談しながら、必要物品を用意して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自主的に役割意識をもって参加される方が大半であり、それぞれの方の“できること”を考えて共に作業をしている。共同作業においては利用者同士の相性も関わってくるため、そのバランスも配慮している。	食材の買い出し、調理の下ごしらえ、配膳、後片付けまで、職員がサポートしながら利用者が個々の力を発揮して取り組んでいる。全員で食卓を囲み食材や味付けに話が弾み、楽しい食事時間になっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の状態に応じて家族に相談し、体重が増加傾向の方は盛り付け量を配慮したり、食欲減退の方はバナナやゼリーなどの捕食を用意して頂いている。意識的な水分補給も、全員で行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の状態に応じて、声かけや介助を行っている。違和感や義歯の不具合が生じた際には家族へ報告を行い、歯科受診して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	大半の方が自立ではあるが、記録に日々の様子をおとし込み、体調に変化があれば都度の状況に合わせて、トイレ誘導や環境を整えるなど対策を講じている。	自立度が高い利用者が多い為、直接的な排泄介助は行っていない。自尊心を大切にし、日常の作業や行動をおこす前にさり気なくそっと声掛けしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	本人の嗜好や家族に相談した上で、バナナや牛乳を用意して頂いたり、食材バランスを意識した献立を考えている。日常的な運動(ラジオ体操)も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夕方からの入浴を基本とし、入る順番や湯温など本人の希望を把握した上で、他者との兼ね合いを見ながら平等に入って頂けるようにしている。拒否がある方には、都度対応法を検討しながら取り組んでいる。	浴槽・洗い場が広く、利用者二人で入浴する時もある。職員は浴室内で見守りながら、利用者の安全に配慮している。入浴時の声掛けや順番を工夫し、楽しんで入浴できる様支援に当たっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	全員が同じタイミングで就寝～起床するのではなく、一人一人の生活リズムに合わせた対応を行っている。昼間に活動され続けている方には、休息をとって頂くように意識的な声かけをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書や医師の助言を受けながら、個人の薬に関して周知している。会議でも薬に関する提供方法や管理方法などの見直しを行い、誤薬事故予防に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌や生け花、縫製など、一人一人の趣味や生活歴を活かすことができるような取り組みを考え、支援している。ボランティアによる催しも定期的であり、本人の意思に合わせて参加して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	食材の買物は基本毎日行っており、外出者に偏りが生じぬように配慮している。誕生日や季節に応じた(個人、全員での)外出も随時計画しており、利用者のニーズを取り入れながら支援している。	年に何回かは、全員で花見やドライブ、外食等に出かけている。また食材の買い物が毎日あり、個別にも洋服やおやつを買ったり喫茶店のモーニングへ出かけている。積極的に外出支援をし、利用者の意欲や自立を保つため大切な事として取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時には小遣いの取り扱いについて利用者に説明を行い、理解を得た上で支援している。小遣い帳をもとに、月ごとの収支報告を家族に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて、電話をかけたり手紙を郵送することを支援している。携帯電話を所持されている方もみえ、家族と自由に会話されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔感を保つように努め、季節に応じた飾りや行事写真の掲示を行っている。灯り(電気)や音(TV、音楽)のメリハリを留意しながら、利用者が安心感をもって生活して頂けるように全体の雰囲気づくりを考えている。	ゆったりとしたソファが随所に置かれ、日常も充分くつろげる様配慮されている。、トイレも居室近くに配置されており、安心した居住空間になっている。ワンフロアのため自然と皆が居間兼食堂に集まり、職員も交え歌声笑い声に包まれている。。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の希望や利用者同士の相性、異性との関係性を考慮している。座席においてはトラブルになる可能性もあるので、早めの対応を意識している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはカーテン、洗面台、天袋、エアコンが備わっており、それ以外は個人持ちとなっている。家族と相談しながら、入居前に使用していた家具や生活用品など、可能な範囲で馴染みの物を持ち込んで頂いている。	ベッドやタンス、家族の写真等が持ち込まれ、掃除も出来るだけ本人と職員で行い、利用者が居心地良く過ごせる工夫がある。中庭に面した居室からは法人の保育所を見る事ができ、利用者の心とむ時間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が安全に移動できるように、共有部には手すりが設置してある。トイレの電気位置など、利用者の状態や場所によって、分かり易いように張り紙を掲示している。		